

11/5 13:15 取扱注意 公開不可

情報文書

(取扱非管理文)

NISA312 ← フルスカラウト

プラント状況(本店レク)議事メモ

暫定版

日時：平成23年11月5日（土）11:00～11:05

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約10名（カメラ3台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：なし

松本本部長代理よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：なし

以上

11/5.21.20

取扱注意

公開不可

暫定版

情報共有
(4枚)

非管理メモ

プラント状況（本店レク）議事メモ

NISA幹部 ← プレス対応部

日時：平成 23 年 11 月 5 日（土）18:00～19:00

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名（カメラ 3 台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第二百二十五報）
- 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について（11月4日採取分）
- 福島第一原子力発電所付近における海水中の放射性物質の核種分析の結果について（第二百十八報）
- 福島第一原子力発電所タービン建屋付近のサブドレンからの放射性物質の検出について（11月4日採取分）
- 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水各種分析結果
- 福島第一原子力発電所放射性滞留水の改修・処理の仕組み～水処理（淡水化）の仕組み～
- 福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋 1階 ロボットによる通路上干渉物移動ならびに干渉物移動後の線量測定

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 3号機原子炉建屋 1階におけるロボットによる作業は 3台で実施されたのか。

A. 使用したロボットは計 3台である。干渉物撤去をウォリアー 1台で行い、その監視をパックパッド 2台で実施した。

Q. ロボットによる線量測定結果として、215mSv/h、150mSv/h のポイントがあつたが、この線量において人による作業は可能か。さらなる撤去や除染が必要なのか。

A. ガス管理システムを設置するのは 3号機北東エリアであり、機器ハッチ上部に可燃性ガス濃度制御系の取出口がある。測定結果の線量 215mSv/h、150mSv/h のポイントが存在する状況であれば、人手による作業は困難である。遮蔽、除染の作業が必要となってくる。低減対策をとった後、システムを取り付けたいと考えている。

Q. 遮蔽、除染の作業はロボットで実施するのか。

A. 現時点では未定である。被ばくを避ける意味ではロボットでの作業が望ましいが、作業に限界もあるため線量管理をしながら作業を実施していきたい。

Q. 1号機、3号機におけるガス管理システム設置の目途は。

A. 1, 3号機ともシステムの設置工事の準備にはすでにとりかかっている。必要な資機材の搬入工事は行っており、線量の関係があるため1号機を先行して実施できるのではないかと考えている。具体的な完了時期は未定である。

Q. 年内での設置は可能か。

A. 年内にはともに設置できるのではないかと考えている。

Q. 淡水化装置について、どんどん処理水内の塩素濃度が下がっていくと、今後、淡水化装置はいらなくなると思うが、全てを淡水化できる見通しは。

A. 津波により大量の海水が建屋内に入り、塩素濃度が高い水が溜まっていたが、雨水や地下水の侵入や水処理が順調に進んでいることで薄まっている状況。しかしながら、依然として塩素濃度が4,000ppm程度であり、直接、原子炉へ注水するには高いと考えている。淡水化処理後の塩分濃度は50ppmぐらいであるが、同じぐらいになるには相当時間が掛かると思われ、当分の間は淡水化装置を運転する必要があると考えている。

Q. 3号機原子炉建屋のロボットによる調査結果について、215mSv/hが確認された箇所は作業場所から何mの所なのか。

A. 約1~2mの範囲である。PCVガス管理システムで実際に使用する可燃性ガス濃度制御系は床面から上方にあり、梯子を登って作業する。

Q. AGHベッセルの1塔通水について、既に9月28日からAGHスキッドにはAGHベッセルは使用していないのか。

A. AGHベッセルの交換についてはお知らせしていたが、処理水内のヨウ素の数値が小さくなってしまい、セシウムを中心に除去してAGHベッセルの廃棄物を減らすためにHベッセルを使用していた。

Q. AGHベッセルはヨウ素以外に何を除去するのか。

A. ヨウ素のみである。

Q. 9月28日からAGHスキッドにHベッセルを使用していたことを公表しなかったのはなぜか。

A. 処理水にヨウ素が含まれないことから、AGHベッセルの廃棄物を低減するために現場の方で改善活動を図っていた。しかし、広報側へ現場の改善活動の情報が伝わっていないかった。私どもはAGHベッセルを交換していることは知っていたが、詳細な内容について情報がうまく伝わっていなかった。

Q. 作業状況をどこまで広報へ伝えるか、誰が判断するのか。

A. 基本的には作業を実施する箇所が判断するが、記者の関心事項と社内の公表基準にミスマッチがあると困るので、その点については広報で調整する必要がある。

Q. 過去に4号機原子炉建屋の水位を公表していなかったことがあったが、広報がうまくコミットする仕組みはないのか。

A. 日々の作業予定などについては、情報を聞いて内容を確認しているが、もう少し感度を上げてアンテナを高くする必要があると考えている。Hベッセルを使用していたということまで確認できていなかったが、今回の件を教訓としてどのように広報していくか検討して行きたい。

Q. 線量測定結果で、以前に比べると高い数値の600mSvのポイントが検出されたのはどのような要因が考えられるのか。

A. 判断が難しいところであるが、今回干渉物を移動して測定できた結果であって、以前は干渉物があるために今回測定したポイント付近まで到達できていない状況が理由の一つとして考えられる。また、前回測定した後、線量が高い状況が発生したのかに関しては、事態そのものが変化していないため、以前から線量が高かったのではないかと考えている。飛び地のように高い線量が測定された理由に関しては、はっきりしていない。

Q. 除染作業はどのような手段で行うのか。

A. 基本的には、掃除に近い感覚である。洗い流す、ブラシでこすり取る、シール材のようなものを吹きつけ剥がし取る、掃除機のようなもので吸いとっていくなどが考えられるが、現時点では未定である。

Q. 北東エリアのガレキ撤去が終了すれば、PCVガス管理システムの機器設置作業を進める事ができるのか。

A. 北東エリアから二重扉を経由してタービン建屋へ配管を引き回し、タービン建屋内にフィルターやファンが設置される。したがって、原子炉建屋全体のガレキ撤去が進まないと作業できないと言うわけではない。

Q. 2号機の水素濃度について、保安院が2.6%まで下がっていると言っていたが、東電として何%まで下げたいと考えているのか。

A. 本日17:00現在、水素濃度の最新値は2.7%である。もともと格納機内には1%程度あると想定して、配管の行き止まりなど溜まりやすい箇所のものを吸い込んで濃度が高くなっていると考えている。現在、窒素と水蒸気が格納容器内にどれだけあるのか評価を行っている。水素濃度は排気ファンの出口で測定しているが、格納容器内の水蒸気を乾いた状態にするために排気ファンの入口には放熱器がある。そのため、格納容器全体で1%だった水素が排気ファン出口では増える事になる。現在2.5~2.7%程度で濃度が推移しているが、この数値が妥当か検討していきたいと考えている。

Q. 水素濃度の妥当性の評価はいつできるのか。また、水素が配管の行き詰まりの箇所に溜まるものなのか。

A. 水素は漏れやすい気体であるが、1号機の配管にも相当な量があったように、流れのない箇所にはある程度の水素が溜まっていると思われる。妥当性の評価については早めに実施したいと考えている。

Q. 2号機の水素濃度は定期的に採録しているのか。

A. 1日2回、10時と17時に採録している。

Q. ロボットの干渉物移動作業に要した時間は。

A. 1日目の柵およびドラム缶の移動作業は、11月2日の13:20～19:30までの約6時間、2日目の中石・砂利等の清掃作業は11月3日の13:15～18:10の約5時間の作業である。

Q. 逆浸透膜方式の淡水化装置におけるフィルターの交換頻度は。

A. 本体のフィルターの交換はこれまで実施していない。カートリッジフィルターに関しては、交換していると思う。基本的には、逆浸透膜方式の淡水化装置が放射線に弱いのではないかという懸念があつたため、入ってくる水に関しては $100\text{Bq}/\text{cm}^3$ 以下の制限で運用しており、交換するまでには至っていない。

Q. 逆浸透膜方式の淡水化装置の逆洗浄は実施しているのか。

A. 確認する。

Q. 2, 3号機使用済燃料プールの現在の放射性物質の濃度はどのくらいか。また、トラックに乗せるセシウム吸着塔は水処理施設のもの同じものか。

A. 2号機は9月7日現在で、ヨウ素：ND、セシウム 134： $1.06 \times 10^5 \text{Bq}/\text{cm}^3$ 、セシウム 137： $1.15 \times 10^5 \text{Bq}/\text{cm}^3$ 。3号機は8月19日現在で、ヨウ素：ND、セシウム 134： $7.4 \times 10^4 \text{Bq}/\text{cm}^3$ 、セシウム 137： $8.7 \times 10^4 \text{Bq}/\text{cm}^3$ 。なお、4号機は9月28日現在で、ヨウ素：ND、セシウム 134： $8.0 \text{Bq}/\text{cm}^3$ 、セシウム 137： $1.2 \times 10 \text{Bq}/\text{cm}^3$ 。車載型の吸着塔については、原理的には水処理装置と同じシステムで、金属製の筒にゼオライトに詰めたものにポンプで水を送る。

以上